

小児血液培養より *Moraxella osloensis* を分離した 1 症例

◎河原 菜摘¹⁾、瀬筒 彩音¹⁾、上田 かさね¹⁾、虎清 夏海¹⁾、山口 尚子¹⁾、三ヶ尻 ゆかり¹⁾
国家公務員共済組合連合会 浜の町病院¹⁾

【はじめに】*M. osloensis* はグラム陰性球桿菌～桿菌を示す非運動性のブドウ糖非発酵菌の 1 つである。今回我々は、小児血液培養検体より *Moraxella osloensis* を分離した症例を経験したので報告する。

【症例】5 ヶ月、男児。症状は発熱、咳嗽、哺乳不良。喀痰培養より *Moraxella catarrhalis* が検出された。また、咽頭ぬぐい液検体でアデノウイルス迅速検査が陽性であった。

【血液培養】小児用ボトル 1 セットが提出され、2 日目に陽転した。腸内細菌目細菌様のグラム陰性桿菌を認めた。

【同定検査】カタラーゼ試験(+)、オキシダーゼ試験(+)、運動性(-)、偏性好気性菌。Microscan Walkaway 96 Plus : 同定できず。質量分析同定(VITEK-MS) : *Moraxella osloensis* / *Enhydrobacter aerosaccus*。16S rRNA 遺伝子解析 : *M. osloensis* (相同性 99.17%)。

【考察】*M. osloensis* は鼻腔や口腔内の常在菌の 1 つであり、通常は病原性を示さないとされている。しかし、国内でも少数ではあるが易感染者や小児において敗血症、髄膜炎などの報告がされている。近年では質量分析同定や

16SrRNA 遺伝子解析の普及により報告が増加している菌の 1 つである。今回の症例では、血液培養陽性検体のグラム染色にてやや太く短いグラム陰性桿菌が検出されたことから、この時点では腸内細菌目細菌が疑われた。しかし、オキシダーゼ試験が陽性であったことや偏性好気性菌であったことなど、一般的な腸内細菌目細菌の特徴と合致しない点を多く認めた。当院で検査可能な生化学的性状では同定ができず、最終的に 16S rRNS 遺伝子解析で *M. osloensis* と同定された。また、*M. osloensis* はグラム染色では陽性と陰性が混在してみられることがあるとの報告があり、本症例でもコロニーからのグラム染色では混在した様子が確認できた。一般的な検査室で検査可能な項目では本菌同定に至るのは難しいと思われるが、グラム染色所見やオキシダーゼ試験などの一般的性状が本菌を疑うきっかけになると考えられ、これらの重要性を改めて確認できた症例となった。